

Manual No. JNY2001E

初 版 2014 年 06 月

改 版 2019 年 12 月

クリコイ-ダ[®]-NY NY-30S/B 型 (ポンプコントローラ制御タイプ)

取扱説明書

お願い

1. 開梱、据え付け、配管、配線、運転、保守の前には必ずこの取扱説明書をお読みください。
2. この取扱説明書は、ポンプを実際に使用する方が、すぐ見られる場所に保管してください。
3. 栗田工業(株)推奨薬品以外を適用した場合、本製品は保証期間内であっても保証の対象外となります。本機は、栗田工業(株)の推奨する薬品にて、耐食試験を実施しております。推奨外の薬品をご使用になると、装置内接液部(ポンプヘッド部等)からの薬品漏れ、劣化及び、装置本体への悪影響から、本来の性能を発揮できない場合があります。また、それらに伴い、元来の目的である水処理側へも影響を及ぼす恐れがあります。

目次

1. 安全にお使いいただくために	
1.1 本書の使い方	1
1.2 本製品の使用条件	1
1.3 取扱い上のご注意	2
2. 開梱	3
3. 型式表示	
3.1 表示ラベルについて	4
3.2 ラベル貼付け位置	4
3.3 ラベル記載内容	4
4. 各部の名称と機能	
4.1 タンク本体	5
4.2 制御機器の構成	6
4.3 薬液注入ポンプ（自動エア抜き型）	6
5. 仕様	
5.1 タンク仕様	7
5.2 薬液注入ポンプ	7
6. 本装置の据付	
6.1 本装置の固定	8
6.2 アンカープレート取付けピッチおよびメンテナンススペース	9
7. 配管	
7.1 ボンネットおよびポンプカバーの取外し	10
7.2 吐出用ホースの接続	11
8. 端子台の配線	13

目次

9. 設定と運転	
9.1 運転前の確認	15
9.2 動作確認	15
9.3 薬液注入ポンプの設定	15
9.4 薬品の投入	16
9.5 運転	17
9.6 流量測定機能	18
10. 保守点検	
10.1 点検内容	19
10.2 タンクの洗浄	20
10.3 制御機器の保守	22
10.4 薬液注入ポンプ	23
11. 外形寸法図	24
12. 保証と修理について	
12.1 保証について	25
12.2 修理について	25

1. 安全にお使いいただくために

1.1 本書の使い方

この取扱説明書では、製品を安全に正しく取り扱いいただくため、特に重要な事項について、以下の記号を使って説明しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

警告

この表記を無視して取り扱いを誤った場合に危険な状況が起こり、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示します。

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大ケガなどの人身事故につながる可能性があります。

注意

この表記を無視して取り扱いを誤った場合に危険な状況が起こり、「人が傷害を負う可能性、および物的損害のみの発生が想定される」内容を示します。

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりケガをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

お願い

製品そのものの性能・寿命確保のために守っていただきたい内容を示します。

補足

補足説明を示します。

アドバイス

参考情報を示します。

1.2 本製品の使用条件

本製品はタワークリン W100 シリーズ、タワークリン LE200 には適用できません。
上記薬品を適用する際には、専用仕様の薬注ユニットを採用ください。

注意

使用条件の範囲を超えて使用すると、故障の原因となります。

本製品は次の条件のもとでご使用ください。

- 据付環境温度：5～40℃
- 相対湿度：90%以下
- 取扱液温度：5～40℃
- 取扱液粘度：50mPa・s 以下
- スラリー液に使用しないでください。
- 屋外に設置する場所は、直射日光を避けるために日陰に設置するか、屋外力バーを取付けてください。

補足

希釈、溶解時の化学反応熱においても、40℃以下で使用してください。また、特別な薬品では、40℃以下でもタンクに異常が発生する場合があります。

- 液比重：1.4以下

1. 安全にお使いいただくために

1.3 取扱い上のご注意

警告

- 管理者以外の人の手に触れない場所に設置してください。
- 本装置に火気を近づけないでください
- 本装置は、爆発性雰囲気の中では使用しないでください。
- タンクの上に乗ったり衝撃を与えないでください。
- 弊社推奨薬品以外は適用しないでください。
- 薬品の使用前に必ず「安全データシート」(SDS)をお読みください。
- タンク内で絶対に希釈・混合は絶対にしないでください。発熱やタンクが変形することがあります。
- 薬品を取り扱う時には、保護具（ゴム手袋、全面式防災面(後付け式)、安全ゴム長くつ、耐薬品エプロン）を着用してください。
- 濡れた手で作業しないでください。感電する恐れがあります。
- 薬品を取り扱う時、誤って皮膚に触れたり、目や口に入った場合は清水で十分洗い流した後、医師の診断を受けてください。

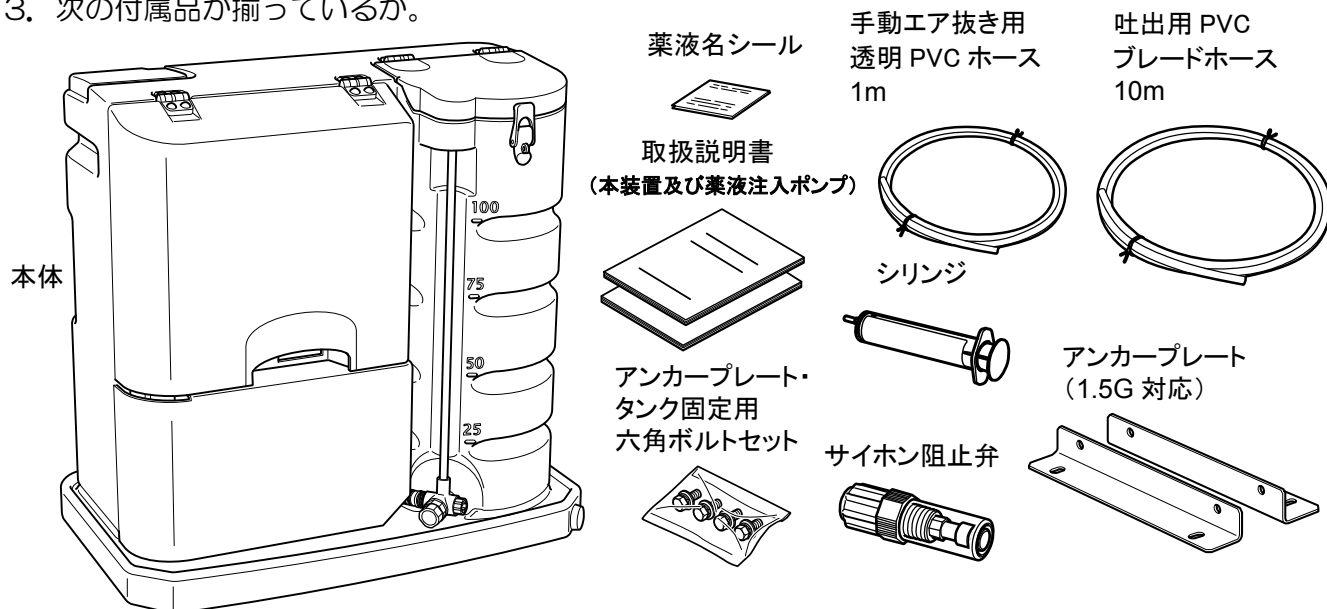
注意

- 本装置は設置用として設計されています。液を入れたまま、移動や移送に使用しないでください。
- 運送時や保管時は、直射日光の当たるところや、周囲温度 40℃以上、相対湿度 90%以上のところに放置しないでください。樹脂部変形等の品質低下や機器の故障原因となります。
- 直射日光の当たるところや、周囲温度 40℃以上、相対湿度 90%以上のところに据え付けしないでください。樹脂部の劣化等の品質低下や寿命が低下します。
- 落としたり、衝撃を与えたりしないでください。破損する恐れがあります。
- 薬品の入れ間違いを防ぐため、必ず投入薬品名と本装置に貼付された薬品名シールを確認してから投入してください。
- 水張りテストをした場合、薬品に影響を与える可能性があるため、水を完全に排出し、充分乾燥させてください。
- 本装置は耐薬品性に充分考慮しています。ただし、適用する薬品を変更する際は本装置を十分洗浄してください。洗浄が不十分な場合、反応熱および有害なガスが発生する恐れがあります。
- ガスが発生する液体の場合、周辺に影響を与えるおそれがあります。
- 継ぎ手とホース、ホースナットは必ず付属品及び指定のものを使用してください。
- 本装置の材質を腐食させる薬液を使用しないでください。
- 本装置のねじ部を必要以上に締め付けしないでください。締め過ぎると破損する恐れがあります。
- 汚れを落とす際は、絶対にシンナー、ベンジン、アルコールなどの溶剤を含む薬品等を使用しないでください。樹脂材質部に溶剤が付着するとクラックが発生し、破損の原因になります。
- ホースを外したり、ポンプのダイヤフラムヘッドを分解する前に、必ず吐出側配管の圧力を抜いてください。
- ホースは、抜けないようにホースジョイントの奥まで、しっかり差し込んでください。

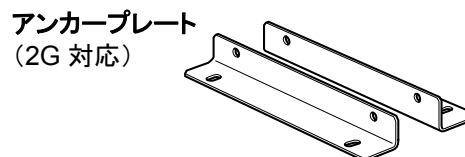
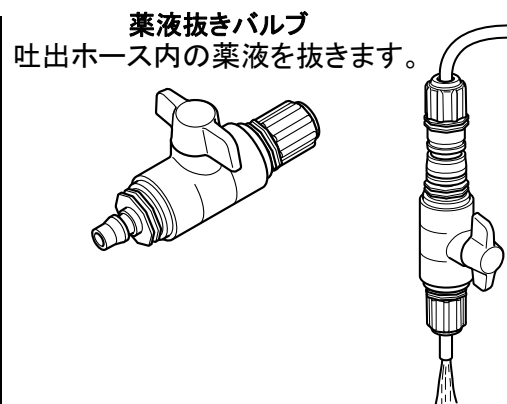
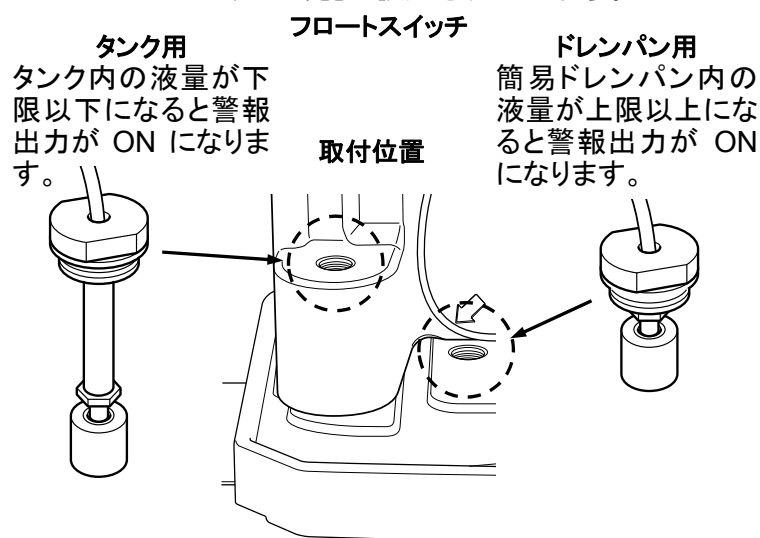
2. 開梱

開梱されましたら、ご注文通りの製品か以下の点をご確認ください。

1. ポンプ型番がご注文通りか「3. 型式表示」を参照してください。
2. 輸送中の事故などで損傷していないか、ボルト類などが緩んでいないか。
3. 次の付属品が揃っているか。



オプションとして次の部品が設定されています。



お願い

- もし不明な点がございましたら、ご注文先または本書の裏表紙に記載のお問い合わせ先までご連絡ください。
- 傷や異常箇所を確認した場合は、直ちに当該運送業者の事故証明書を取り付け、速やかに当社へご連絡ください。

アドバイス

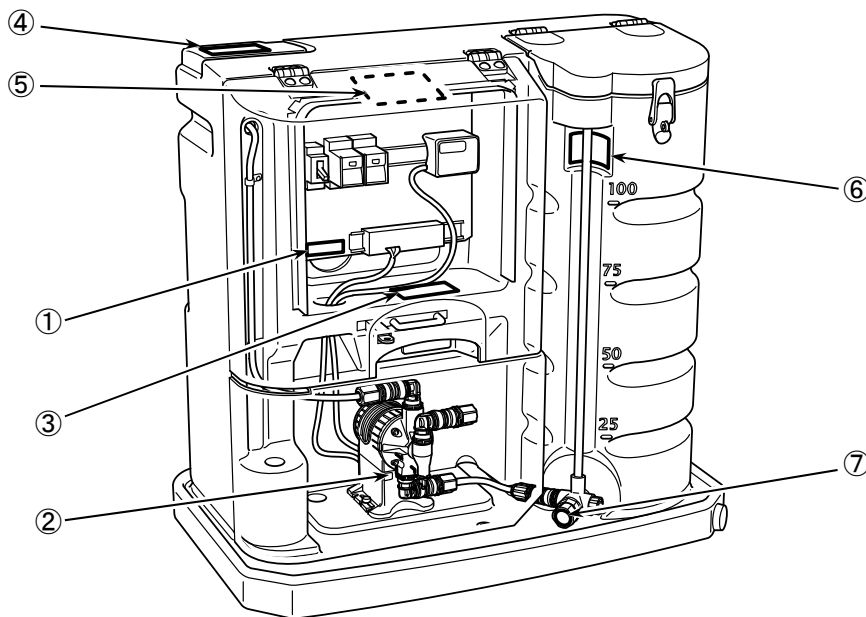
開梱後タンクを直ぐに使用せず一時的に保管する場合、直射日光が当たる場所や高温雰囲気内での保管は避けてください。本装置の劣化が早まる恐れがあります。

3. 型式表示

3.1 表示ラベルについて

- ・本装置には下記の銘板と警告・注意ラベルが貼り付けてあります。
- ・ラベルに記載されている内容をご理解いただき、注意および警告事項を厳守してください。
- ・ラベルを剥がさないでください。また、内容が常に確認できるようにしておいてください。

3.2 ラベル貼付け位置



3.3 ラベル記載内容

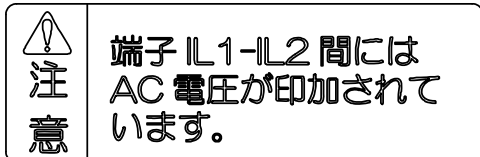
① ユニット銘板



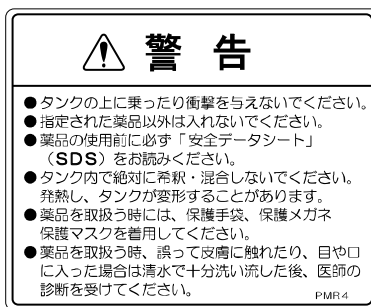
② ポンプ銘板

薬液注入ポンプの取扱説明書を参照してください。

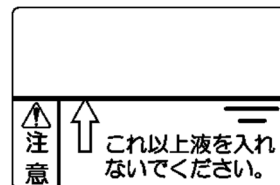
③ 注意ラベル



④ 警告ラベル



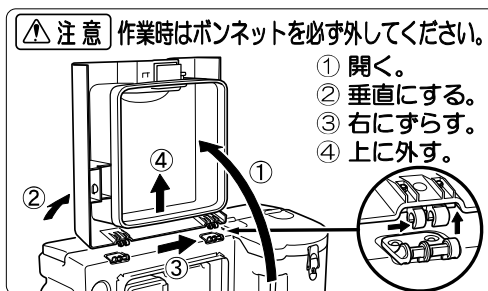
⑥ 注意ラベル



⑦ 注意ラベル

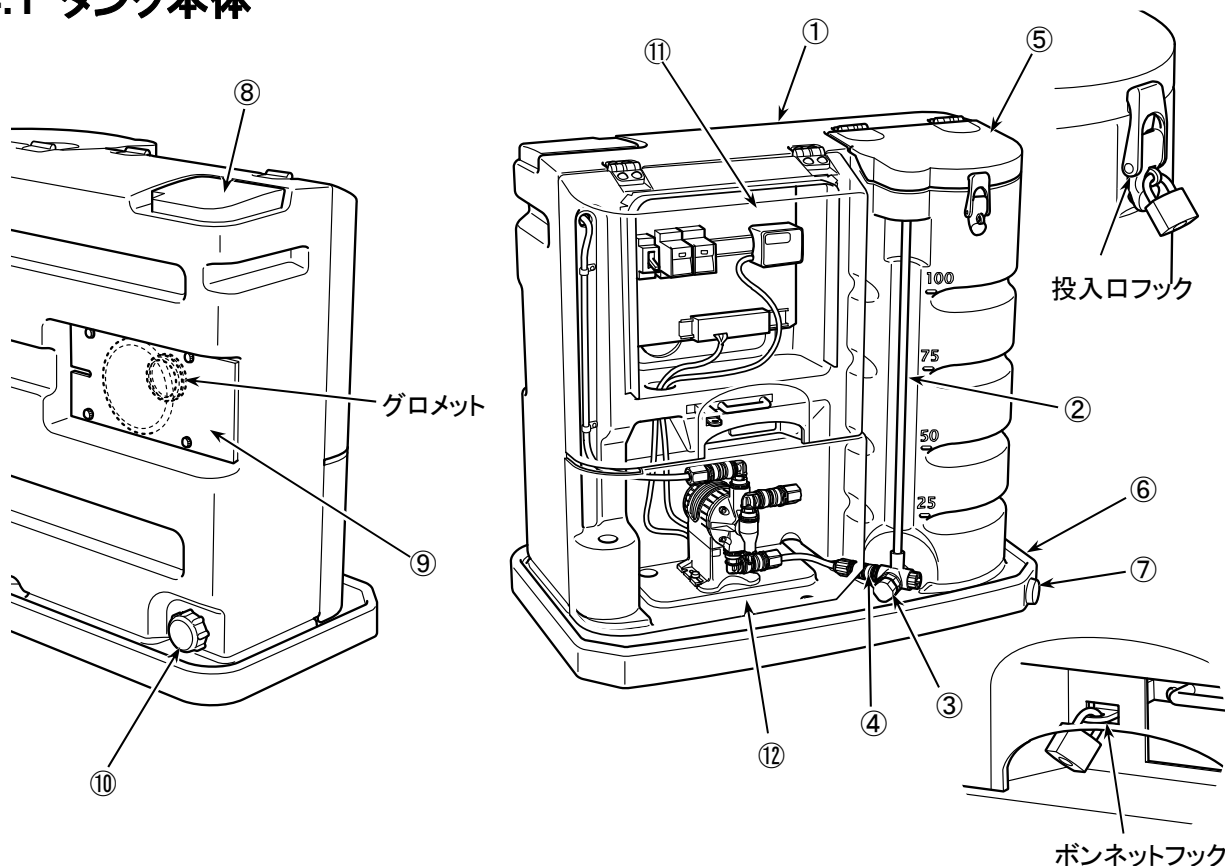


⑤ 注意ラベル(ボンネット上部裏側)



4. 各部の名称と機能

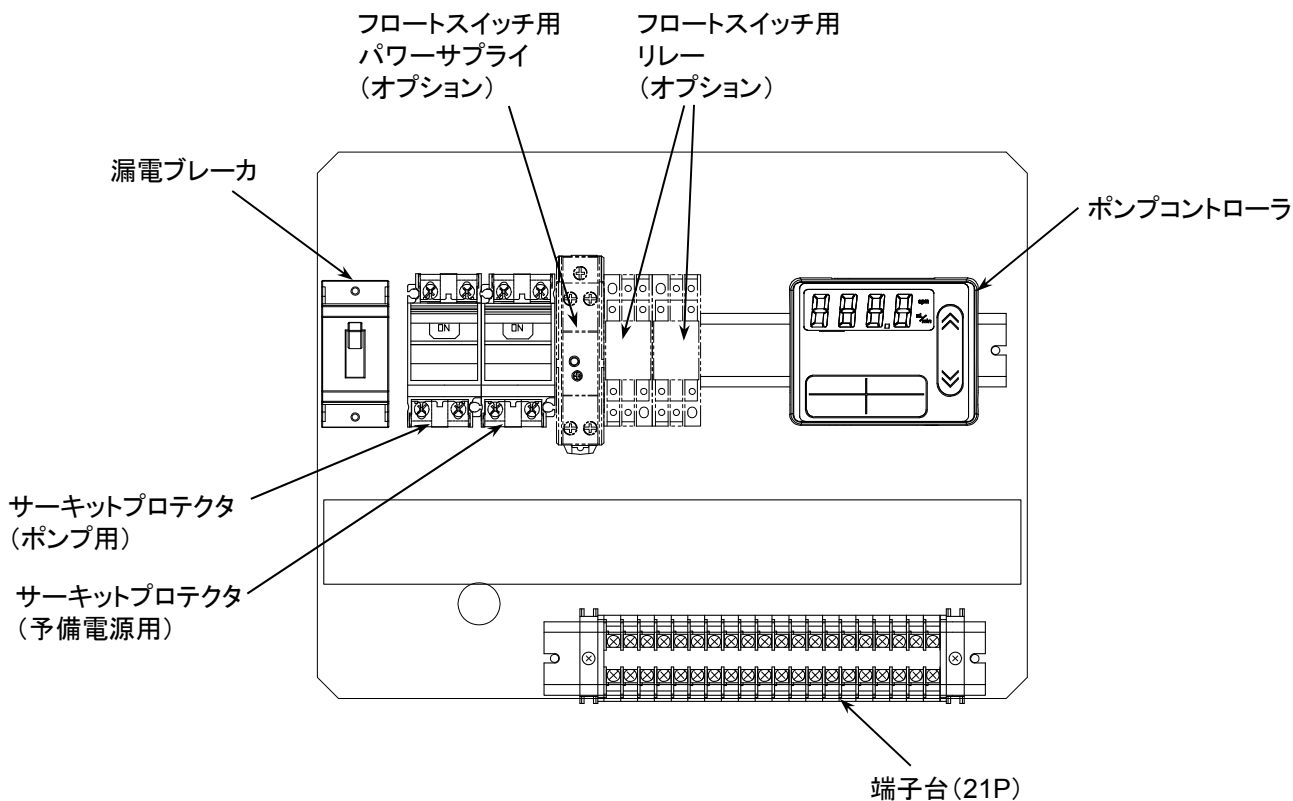
4.1 タンク本体



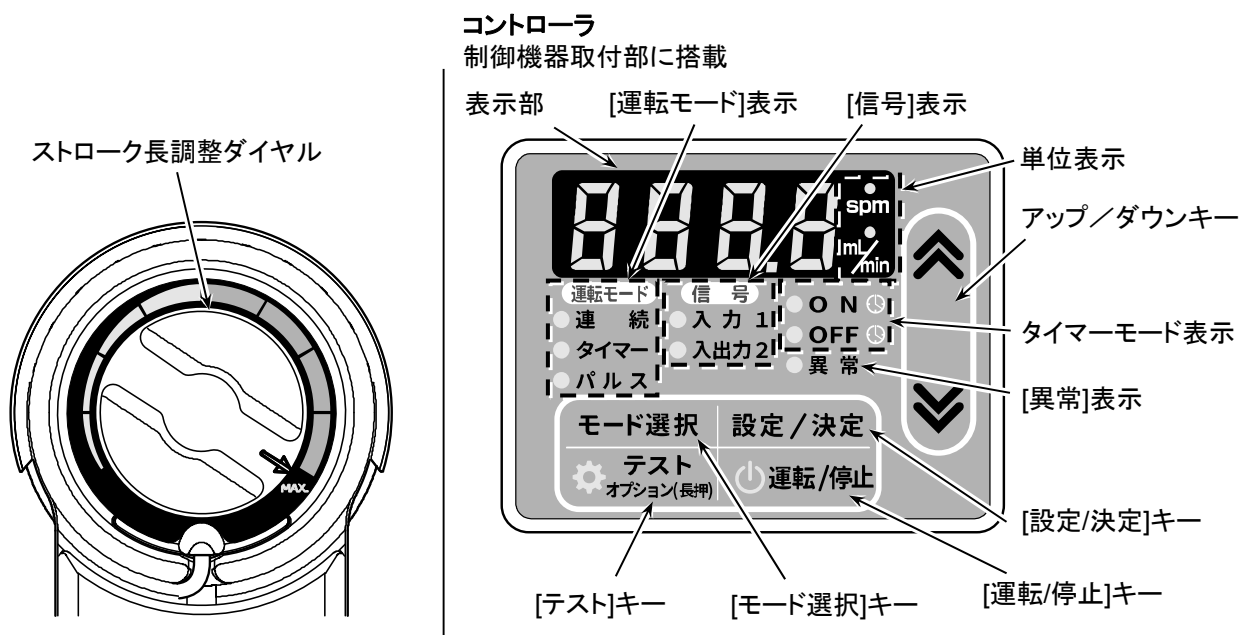
- ① タンク本体 材質はPE（ポリエチレン）です。タンク底板部が内面傾斜構造となっているため、液留まりが発生しにくく、タンク内洗浄時に薬液の排出が容易です。
- ② レベルゲージ タンク内薬液の液位を示します。
- ③ ドレンバルブ（タンク） タンク内の薬液を排出する際に使用します。
- ④ ホースジョイント ポンプの吸い込みホースを接続します。フィルタが装着されています。
- ⑤ 薬品投入口 薬液を投入します。
南京錠などで投入口蓋を施錠する事を推奨します。
- ⑥ タンク受け座（簡易ドレンパン） タンク受け座は簡易ドレンパンとなっており、タンク受け座内にこぼれた薬液を溜めることができます。
ドレンパンとして使用するときには集水口のキャップを外してください。
- ⑦ ドレンプラグ（簡易ドレンパン） 簡易ドレンパン内の薬液を排出する際に使用します。
- ⑧ 点検口カバー タンク内部を点検、清掃時に取り外します。
- ⑨ 配線導入口 制御機器の配線を通します。（カバー付）
- ⑩ ドレンキャップ（清掃用） 清掃時、タンク内の薬液を排出します。
- ⑪ 制御機器取付部／ボンネット 電源ユニットなどの制御機器の取付部です。
「4.2 制御機器の構成」参照
ボンネットは南京錠などで施錠できます。
- ⑫ ポンプ取付部／ポンプカバー ポンプの取付部です。ポンプ搭載台数は1台です。

4. 各部の名称と機能

4.2 制御機器の構成



4.3 薬液注入ポンプ(自動エア抜き型)



補足

設定や操作方法などの詳細は別冊の薬液注入ポンプ取扱説明書を参照してください。

5. 仕様

5.1 タンク仕様

容量	100L
本体材質	PE(ポリエチレン)
機械室保護型式	IP55 相当
主構成部品	機械室ボンネット(PC)
	ポンプ室カバー(PVC)
	薬液投入口蓋(PE)

5.2 薬液注入ポンプ

電源	AC100~240V
最大吐出圧力	1.0MPa
最大吐出量	30mL/ min

補 足

詳細は別冊の薬液注入ポンプ取扱説明書を参照してください。

上記仕様は改良のため予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

6. 本装置の据付

6.1 本装置の固定

本装置はアンカープレートで移動や転倒などがないように固定してください。
また、本装置の固定は、アンカーの使用を推奨します。

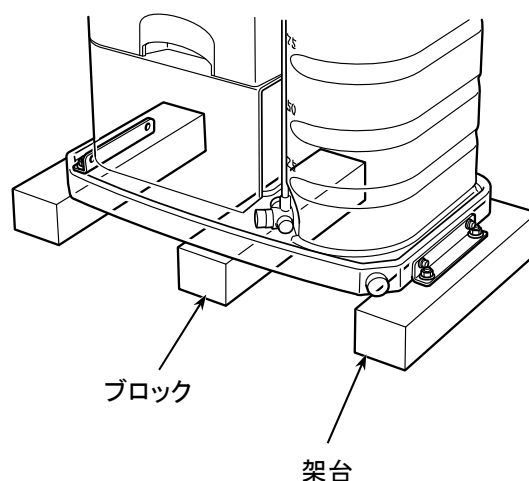
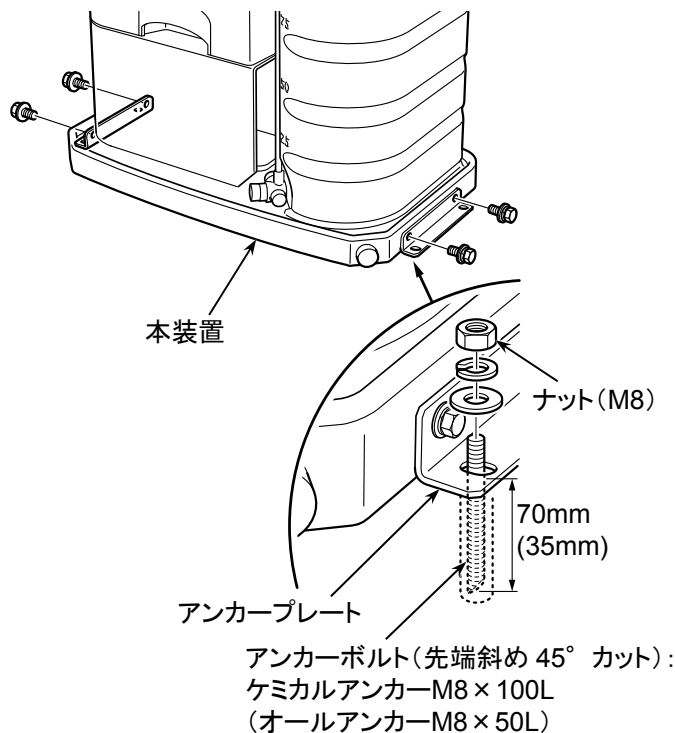
- ① 据付け基礎にアンカーを施工します。
アンカー位置は、「6.2 アンカープレート
取付けピッチおよびメンテナンススペース」を参照してください。
- ② 右図のようにアンカープレートで本装置
を確実に固定します。

⚠ 注意

- 直射日光の当たるところや、周囲温度 40℃
以上、相対湿度 90%以上のところに据え付
けないでください。樹脂部の劣化等の品質低
下や寿命が低下します。
- 本装置の据付け基礎は、全面支持にしてく
ださい。
また、本装置を基礎上に設置する際、基礎
面に鋭い突起物や石ころなどが無いことを確
認してください。

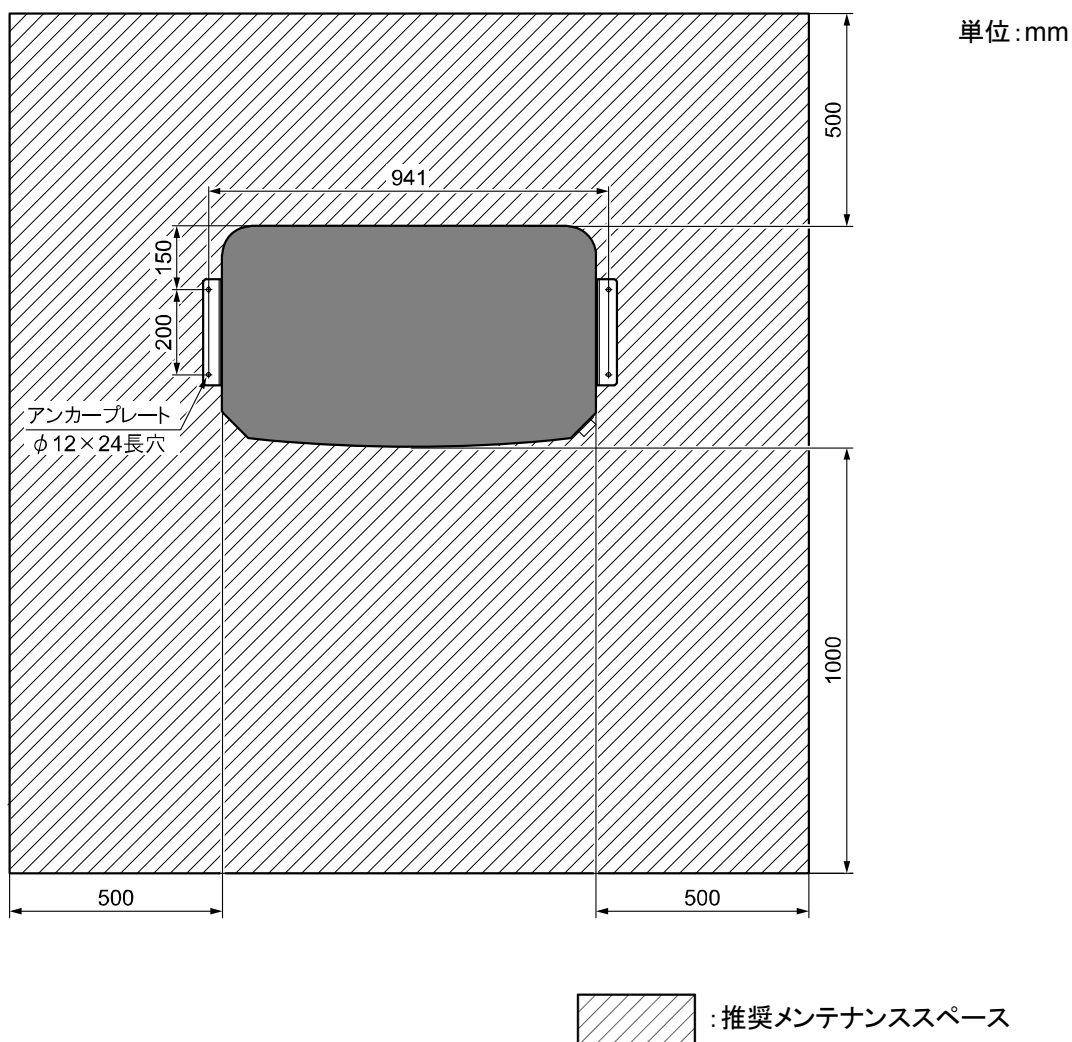
補 足

据付け基礎にアンカーでの据付を推奨しま
すが、架台等を介して簡易的に据え付ける
場合は、必ずタンク下部中央に本装置の荷
重を受けられるブロック等を置いてくださ
い。



6. タンクの据付

6.2 アンカープレート取付けピッチおよびメンテナンススペース



7. 配管

7.1 ボンネットおよびポンプカバーの取外し

制御機器およびポンプの配線や設定はボンネットを取り外して行なってください。

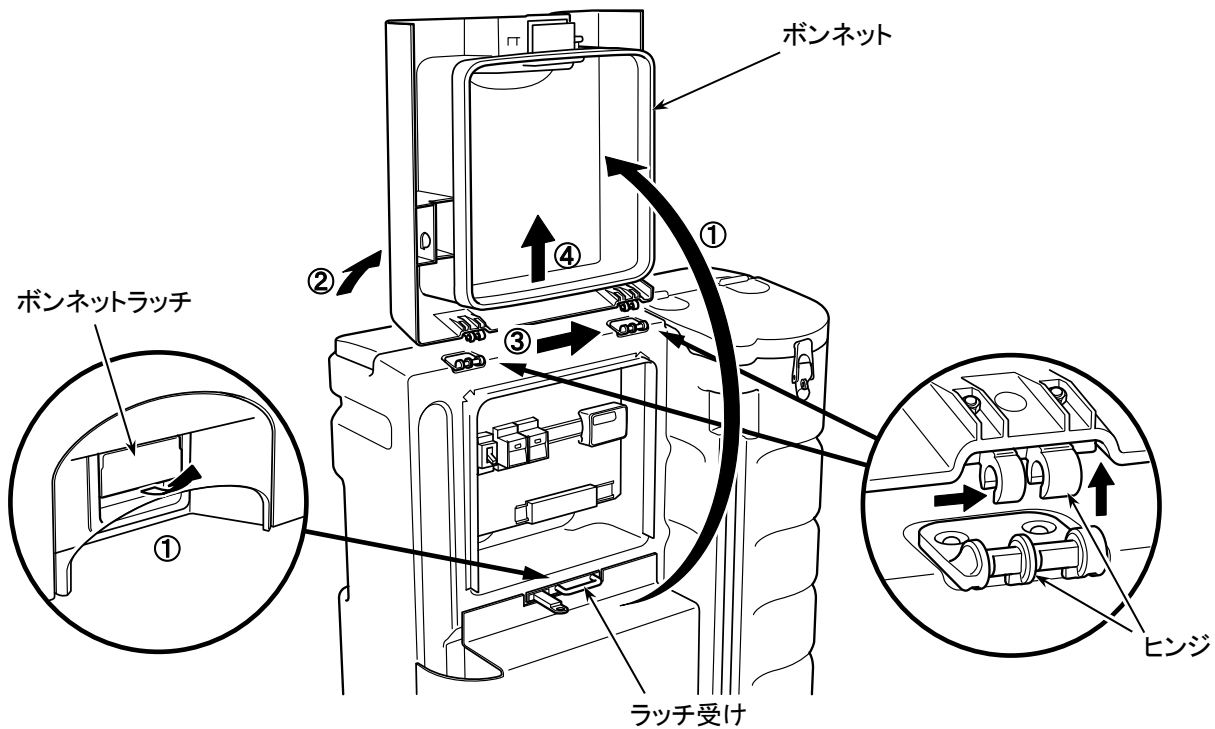
注意

作業中はボンネットを必ず取り外してください。ボンネットを開いたまま作業を行なうと風などにより、突然ボンネットが倒れケガやポンプを破損させる恐れがあります。

■ ボンネット

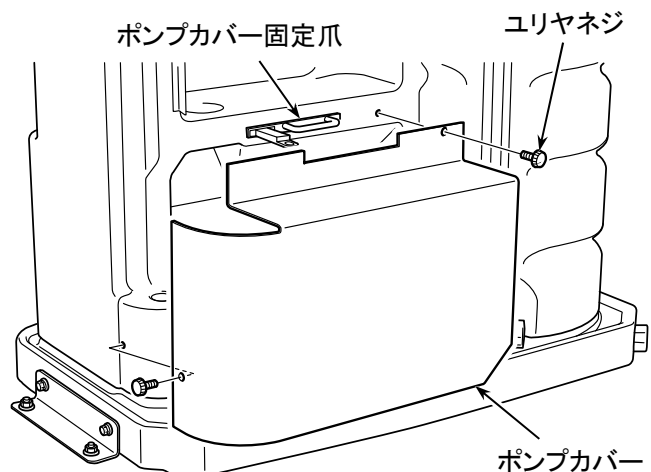
ボンネットを以下の手順で取り外します。

- ① ボンネットラッチを引いてラッチ受けのロックを外し、ボンネットを開きます。
- ② ボンネットを垂直に立てます。
- ③ ボンネット側のヒンジを右側にずらします。
- ④ ボンネットを上を持ち上げて取り外します。



■ ポンプカバー

ユリヤネジ 2 本を外し、ポンプカバー固定爪から外して、ポンプカバーをタンクから取り外します。



7. 配管

7.2 吐出用ホースの接続

付属の吐出用ホース（テトロンブレードホース10m）を切断して使用してください。ホースの切断用の工具は、ホースカッターを使用してください。ハサミ、ニッパ等を使用しますとホース断面が潰れ、ホース抜け、薬品漏れの原因となります。

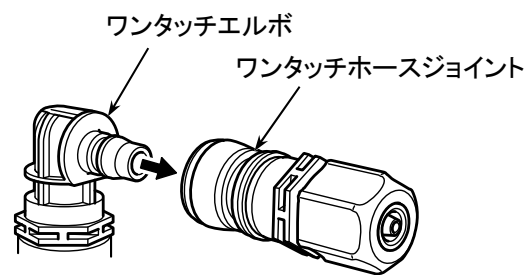
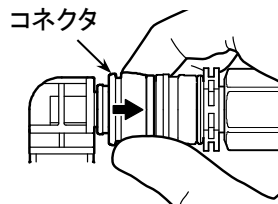
アドバイス

ホースには曲がりぐせがついていますので、曲がりぐせを修正してから使用してください。

補足

吸込側ホースおよびエア抜きホースは出荷時に配管されています。

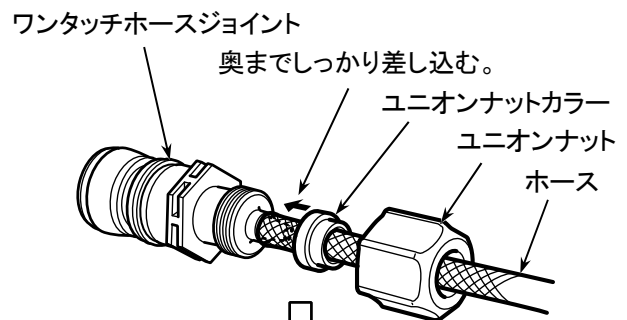
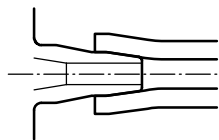
- ① コネクタを引いてロックを外し、ワンタッチホースジョイントをワンタッチエルボから外します。



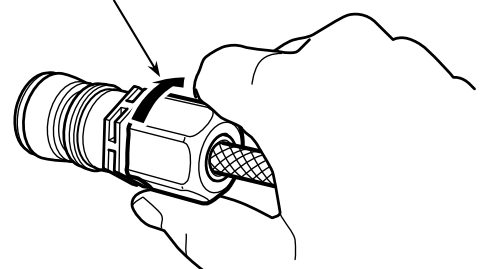
- ② PVC ブレードホースをユニオンナットカラーとユニオンナットに通し、ホース先端をワンタッチホースジョイントに差し込みます。

補足

ホースは下図の位置まで差し込んでください。

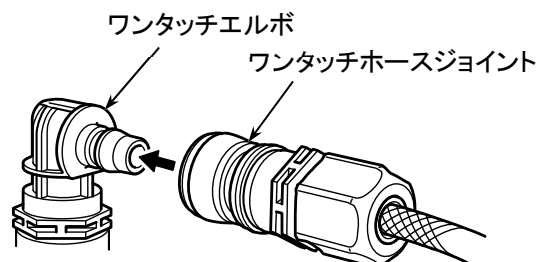


手でしっかり締め付ける。



- ③ ユニオンナットカラーをセットし、ユニオンナットを手で締め付けてホースを固定します。

- ④ ワンタッチホースジョイントをワンタッチエルボに差し込みます。

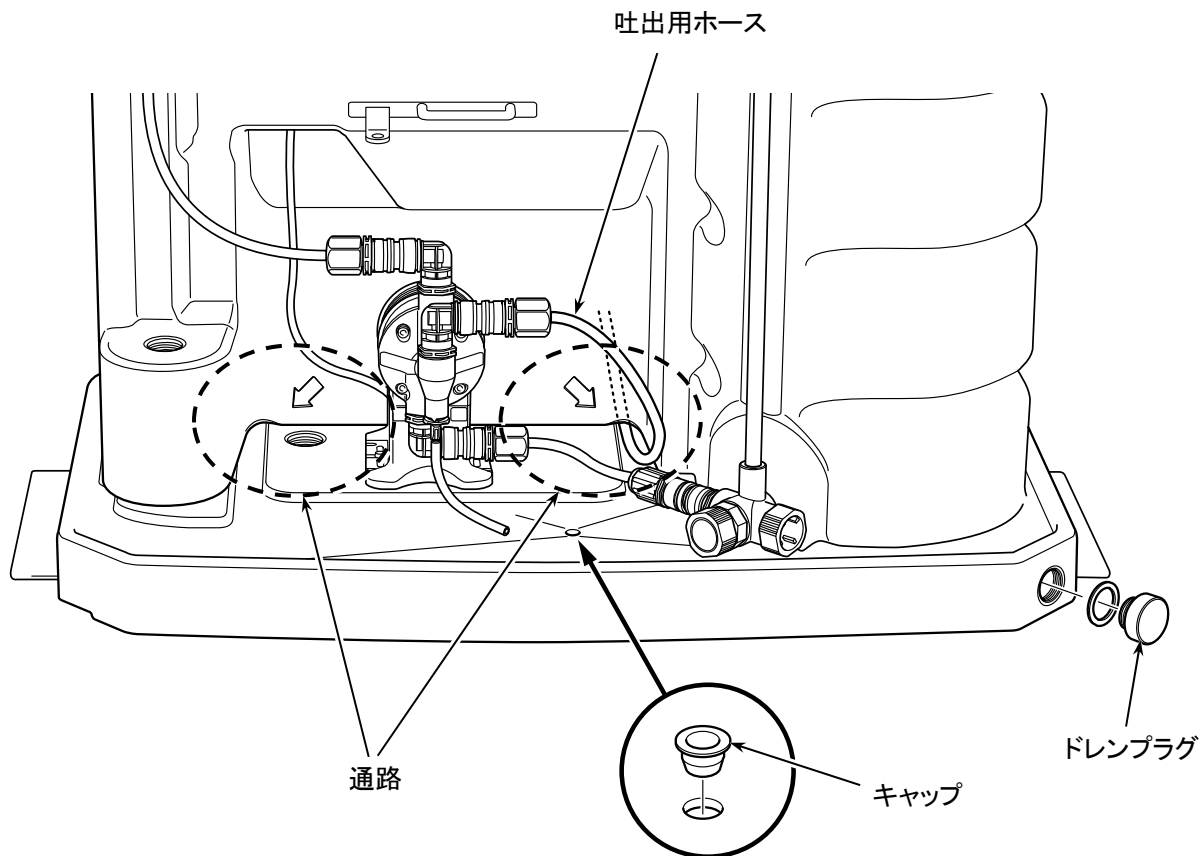


7. 配管

⑤ 吐出用ホースをタンク背面へ通します。

アドバイス

ホースの通路は、タンク下部の2箇所（矢印表示）にあります。現場の状況に合わせて選んでください。



アドバイス

本装置を屋内設置した場合は、中央のキャップを外すことでタンク受け座をドレンパンとして使用することができます。

屋外設置時、タンク受け座をドレンパンとして使用しない場合は、中央のキャップとドレンプラグの両方を外してください。中央のキャップのみを外した状態にすると、ドレンパン内に雨水が溜まります。

8. 端子台の配線

制御機器取付部の端子台に以下の要領で配線してください。

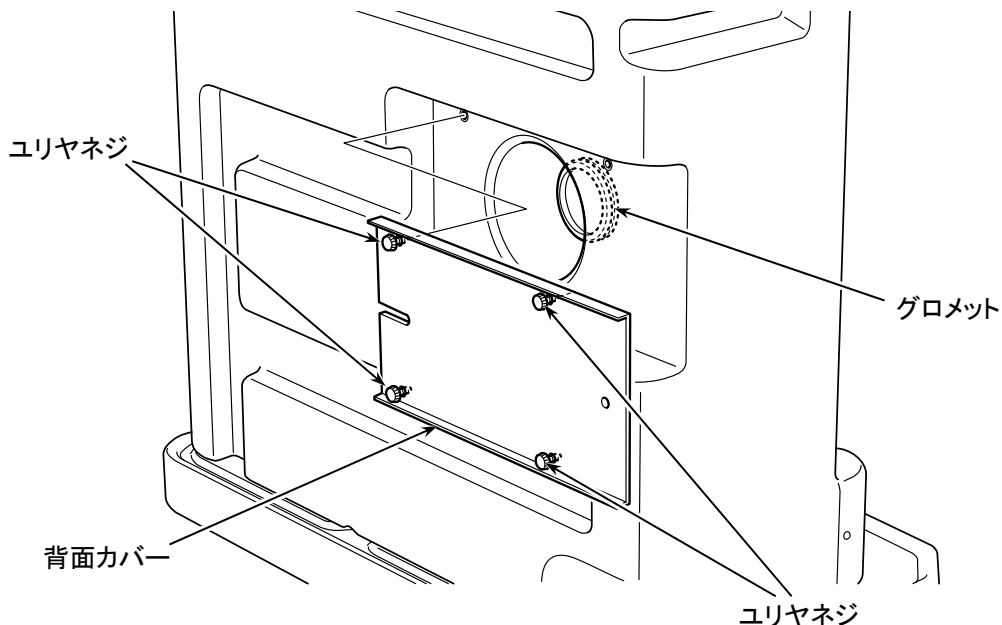
警告

- 配線作業は電気工事士など専門資格者が行ってください。
- 供給電源が、遮断(OFF)になっていることを確認してから作業を行ってください。感電する恐れがあります。
- アース線は必ず接地してください。感電する恐れがあります。

注意

- ポンプ電源および機器電源用出力は、有電源出力です。感電の恐れがありますので、電源を入れた状態で端子台には決して触らないでください。
- アース線は必ず接地してください。接地しないと感電等の原因となります。

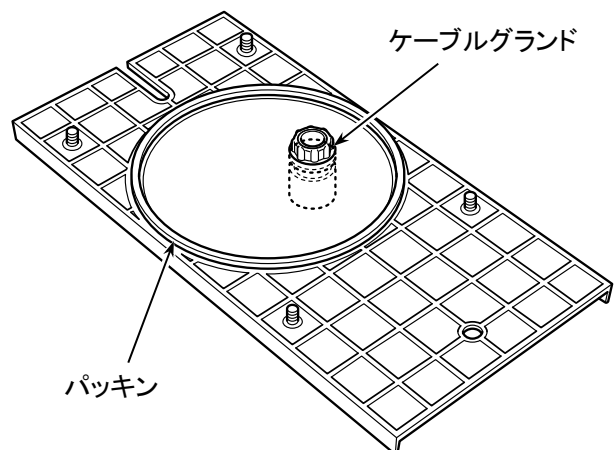
- ① ユリヤネジ 4 本をゆるめて背面カバーを取り外し、グロメットに配線を通す穴を開けます。



- ② 背面カバーの配線を通す位置に配線に見合った大きさの穴をあけ、ケーブルグランドを取り付けます。

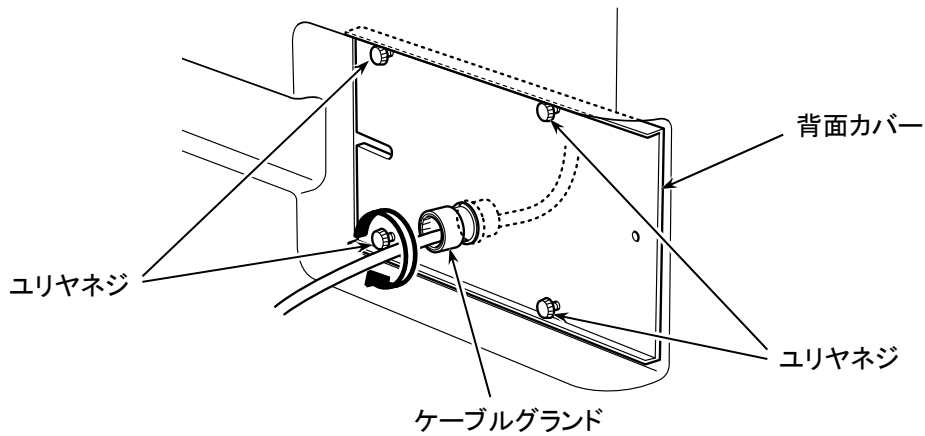
注意

穴あけは、必ずパッキンの内側にあけてください。それ以外の箇所にあけると、水が浸入する原因となります。



8. 端子台の配線

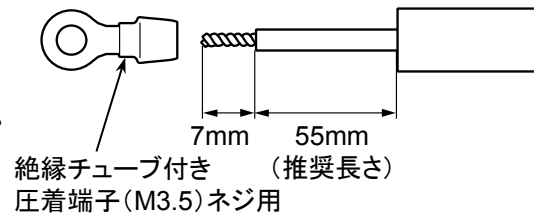
③ 配線をケーブルグランドとグロメットに通し、背面カバーを取り付けます。



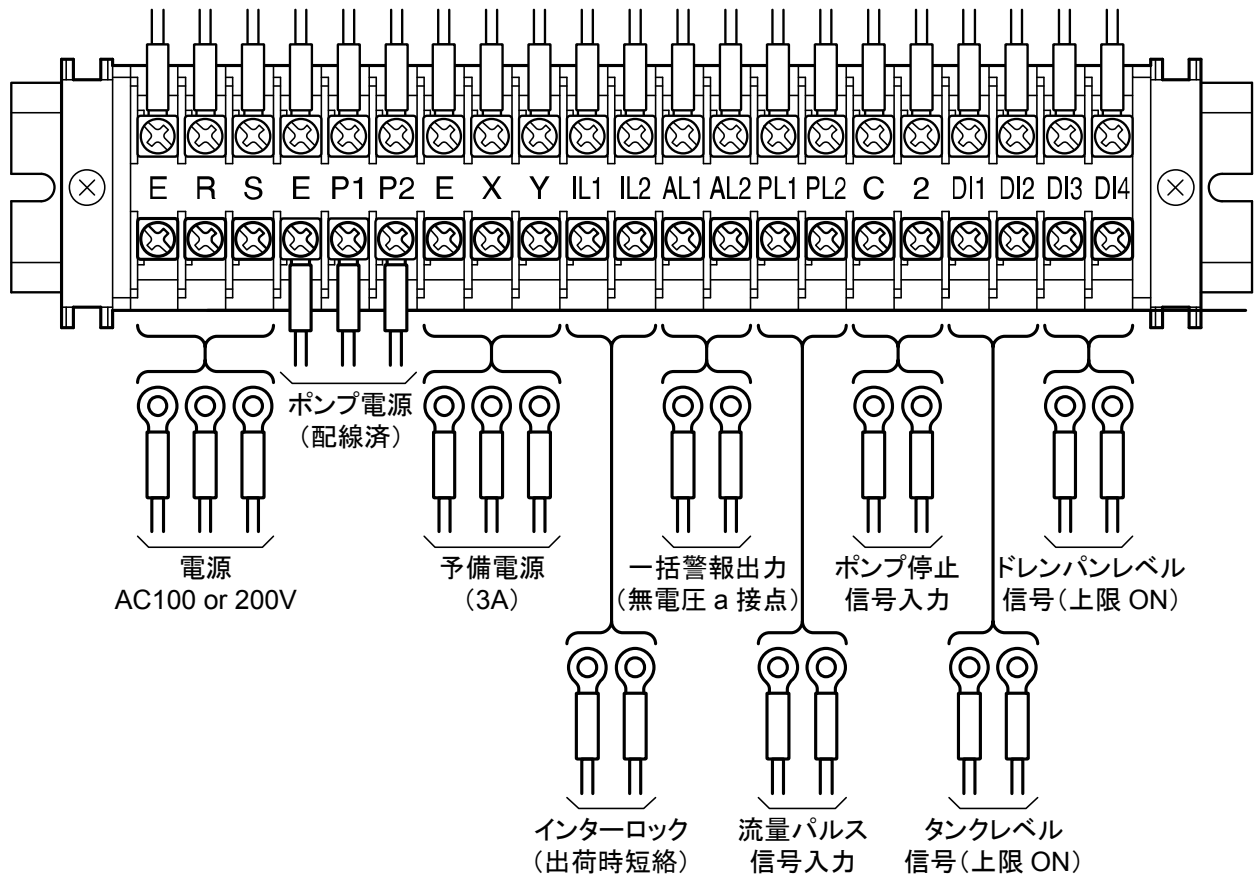
④ 配線に、圧着端子を結線します。

アドバイス

結線は絶縁チューブ付き圧着端子の使用を推奨します。
皮むきは7mm程度です。



⑤ 各ケーブルの端子を端子台に配線します。



9. 設定と運転

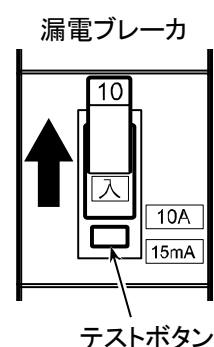
9.1 運転前の確認

薬注運転を開始する前に、次のことを確認してください。

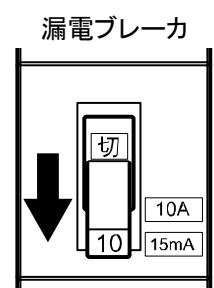
- 本装置およびポンプ取付け部にガタがなくしっかり固定され、ホースジョイント部に緩みがないこと。
- 電気配線に誤りがないこと。
- ポンプや本装置のメンテナンスが容易にできるスペースが確保されていること。

9.2 動作確認

- ① 一次電源が通電していることを確認してください。
- ② 漏電ブレーカを「入」にしてください。



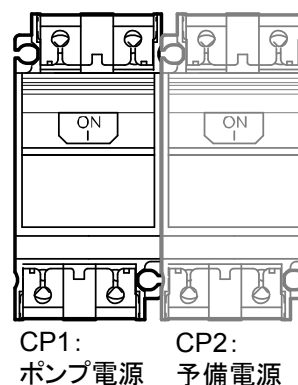
- ③ 漏電ブレーカのテストボタンを押し、漏電ブレーカが「切」になり正常に働くことを確認してください。確認後再度、漏電ブレーカを「入」にします。



9.3 薬液注入ポンプの設定

ポンプを直接運転する場合は、サーキットプロテクタ CP1：ポンプ電源を「ON」にし、ポンプに電源を供給してください。

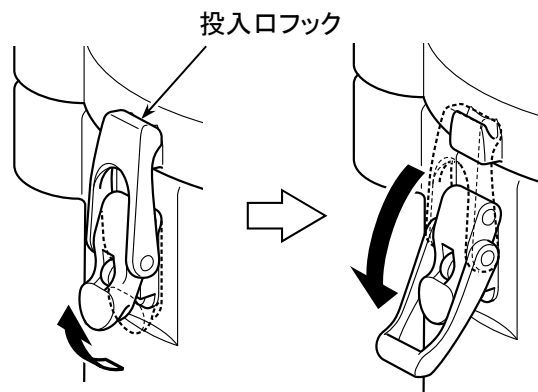
設定や操作方法などの詳細は別冊の薬液注入ポンプの取扱説明書を参照してください。



9. 設定と運転

9.4 薬品の投入

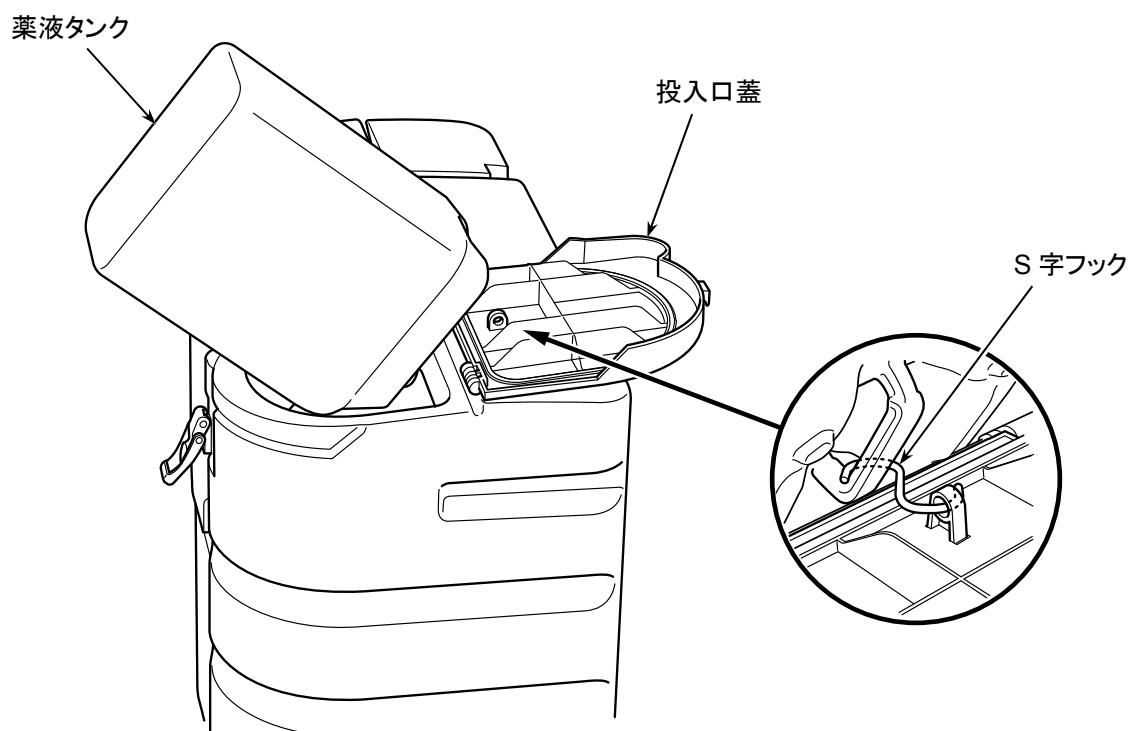
① 投入口フックを外し、投入口蓋を開けます。



② 薬液タンクを傾け、本装置のタンクに投入します。

補足

本装置のタンクは薬液タンクから手を離してもタンクが倒れない構造になっていますが、タンクが空になったときに風で飛ばされないように薬液タンクの取っ手と投入口蓋をS字フック等で固定してください。



③ レベルゲージで液位を確認し、投入口蓋を閉めて投入口フックで固定します。

9. 設定と運転

9.5 運転

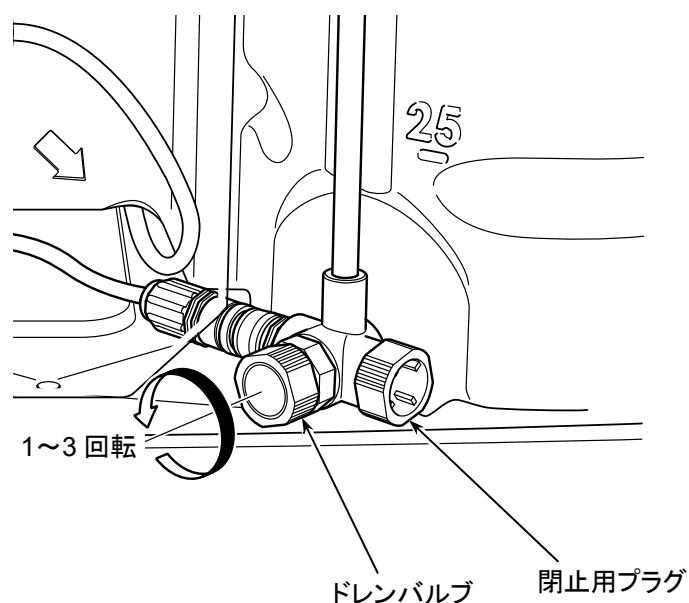
- ① ドレンバルブを 1 回転以上 3 回転以内で開きます。

アドバイス

ドレンバルブの回転数が 1 回転以内の場合、レベルゲージ内の薬液をポンプが吸い込んでしまうため、レベルゲージ内の液位とタンク内の液位に差が生じることがあります。

その場合ドレンバルブをさらに 3 回転以内開いてください。

- ② ポンプの運転を開始します。



注意

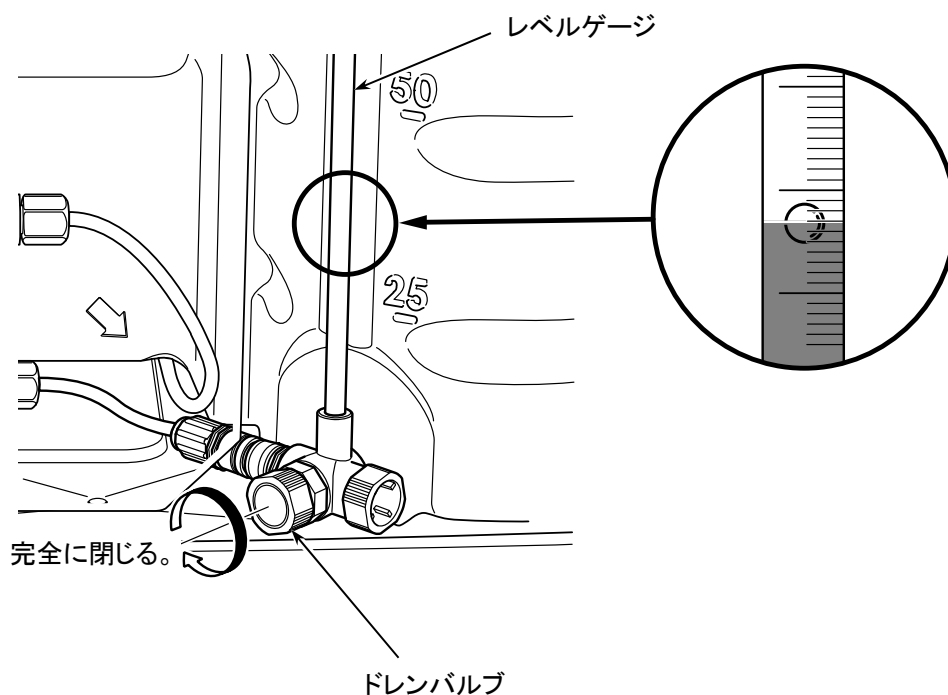
閉止用プラグは開けないでください。

9. 設定と運転

9.6 流量測定機能

レベルゲージをメスシリンダ（1目盛：0.1mL）として使用し、ポンプの実流量を測定することができます。ドレンバルブを閉じることでレベルゲージ内の薬液のみポンプに送ります。

- ① レベルゲージ内の液位を確認します。
- ② ドレンバルブを閉じます。
- ③ ポンプを運転し、レベルゲージの目盛で吐出する実流量を測定します。



10. 保守点検

10.1 点検内容

次の内容を点検してください。異常が発見されたら直ちに運転を停止し、対策を行ってください。

警告

● 薬品を取り扱う時には、保護具（ゴム手袋、全面式防災面（後付け式）、安全ゴム長くつ、耐薬品エプロン）を着用してください。

● 各種装置を保守点検する際は、濡れた手で作業しないでください。感電する恐れがあります。

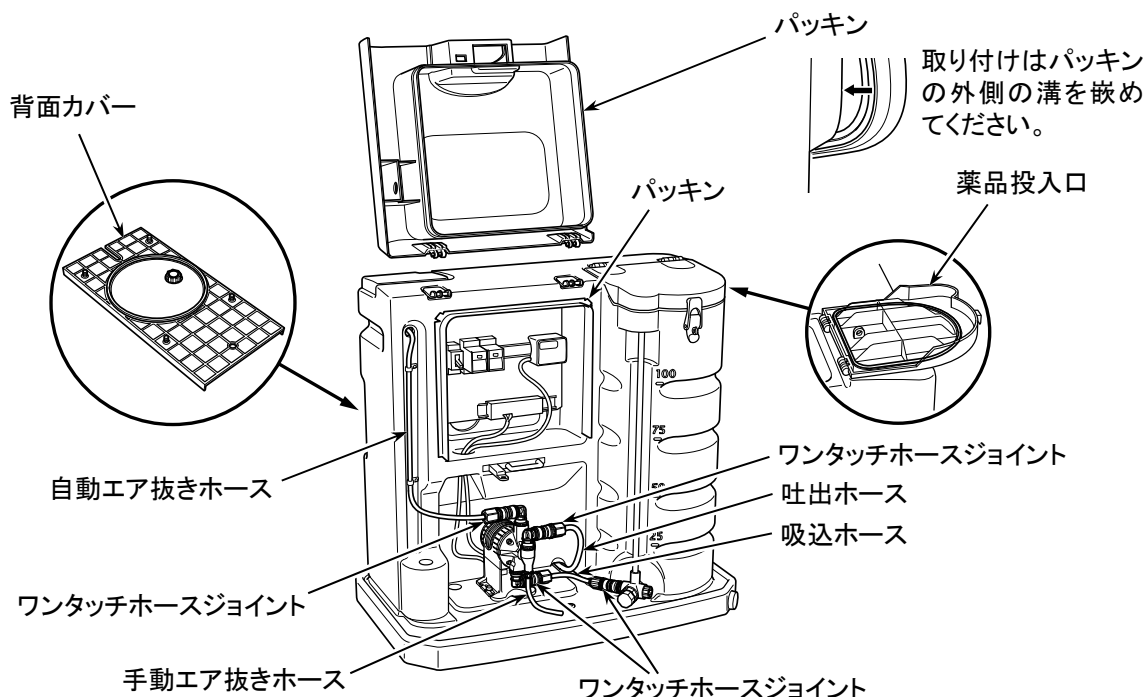
注意

ポンプを保守・点検する際、タンクのドレンバルブを完全に閉じてから行ってください。ドレンバルブを開いたまま分解すると液が漏れて危険です。

- ・ 本装置やポンプの固定状況に異常がないか確認してください。
- ・ タンク内部が汚れていないか確認してください。必要があれば、タンク内部の清掃を行なってください。（「10.2 タンクの洗浄」参照）
- ・ タンクにひび割れ、変色および変形などがないか確認してください。
- ・ ドレン部から液漏れがないか確認してください。液漏れがある場合はバルブシートを増し締めしてください。
- ・ レベルゲージ上部およびレベルゲージに液漏れの形跡がある場合、投入口蓋が密閉になっていることも考えられます。投入口蓋を開けて確認してください。
- ・ 薬液投入時、投入口蓋付近に液がこぼれ、レベルゲージから伝わって下に落ちてレベルゲージ下部に液漏れが発生しているように見えることがあります。この場合は、こぼれた液をふき取り、液漏れのないことを確認してください。

予備品

以下の部品を点検し、劣化、損傷や亀裂がある場合は交換してください。

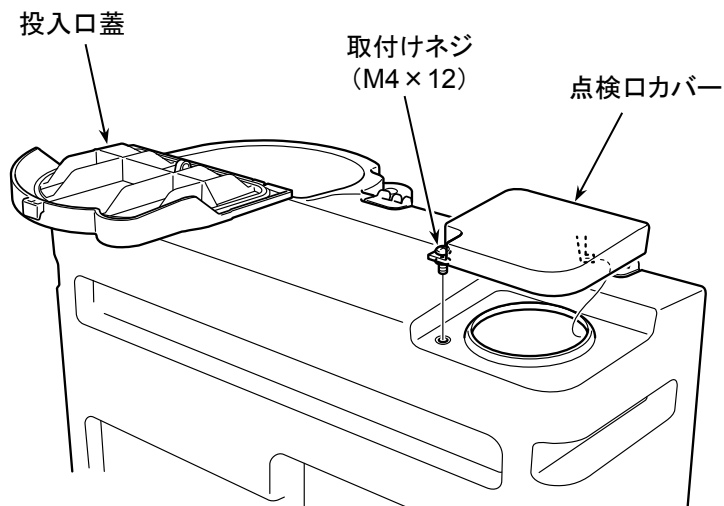


10. 保守点検

10.2 タンクの洗浄

汚れの状況により、清掃する間隔を決定してください。

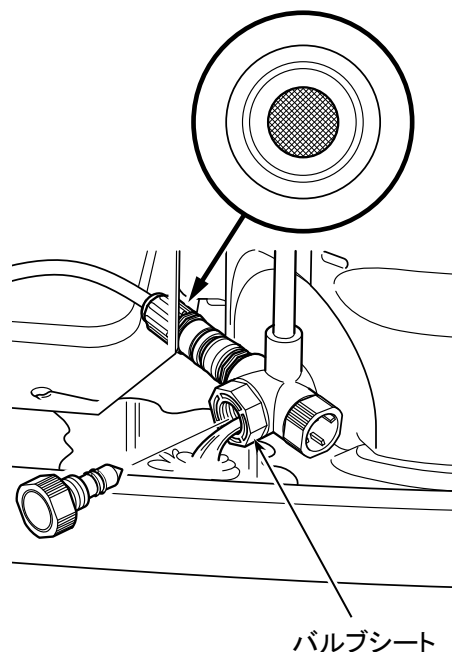
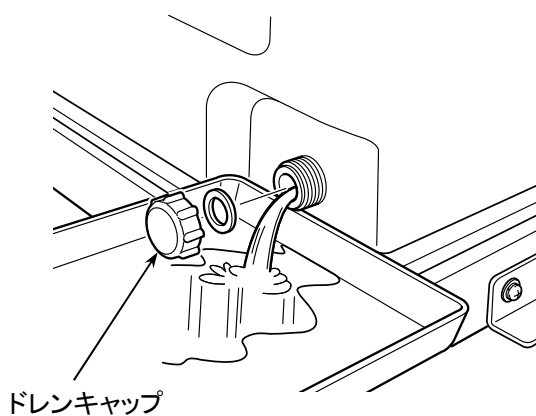
- ① 投入口蓋を開け（「9.4 薬品の投入」参照）、取付けネジをゆるめて点検口カバーを取り外します。



- ② タンク背面のドレンキャップとレベルゲージ下のドレンバルブを外してタンク内部の薬液を完全に排出し、洗浄します。

補足

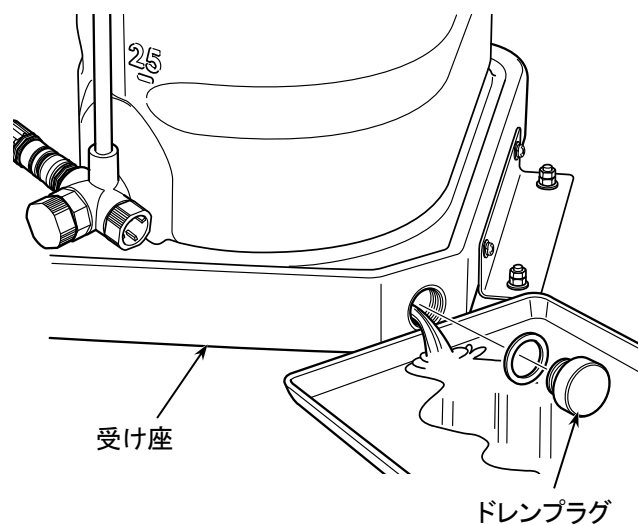
レベルゲージから排出された薬液は、タンク受け座（簡易ドレンパン）に溜まります。



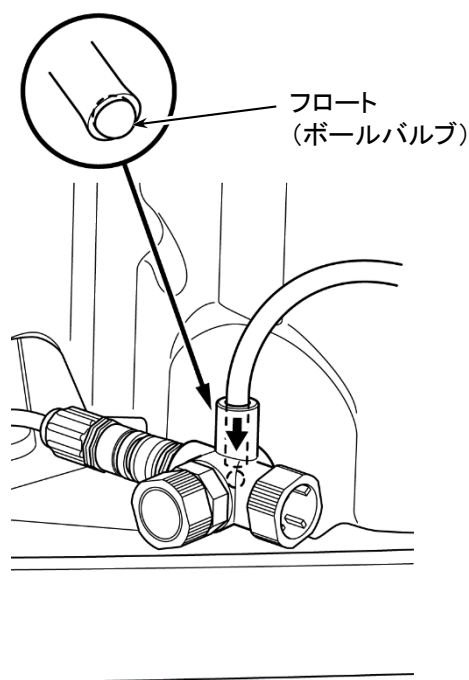
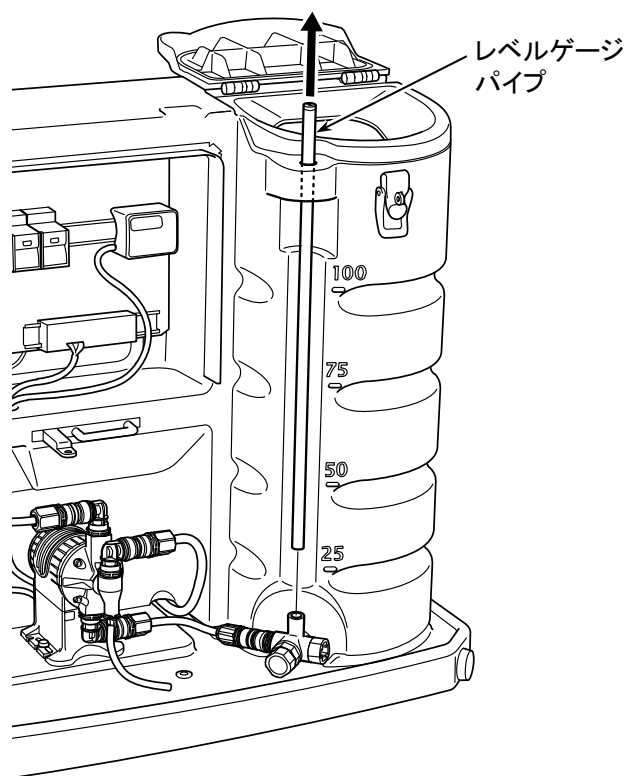
タンクの洗浄と同時にフィルタを清掃してください。
ホースの接続を外し、ホースジョイントを取り外して内部のフィルタを清掃します。

10. 保守点検

- ③ さらにタンク受け座（簡易ドレンパン）のドレンプラグを外して受け座内の薬液を排出します。



- ④ レベルゲージのパイプを抜き出します。
フロート（ボールバルブ）がバルブボディ内に残りますので、余った吐出用ホース等を利用し、フロートをホースに押し込んで取り出してください。



10. 保守点検

10.3 制御機器の保守

■ 漏電ブレーカの点検

漏電ブレーカのテストボタンを押して漏電ブレーカが正常に働くことを確認してください。
(「9.2 動作確認」参照)

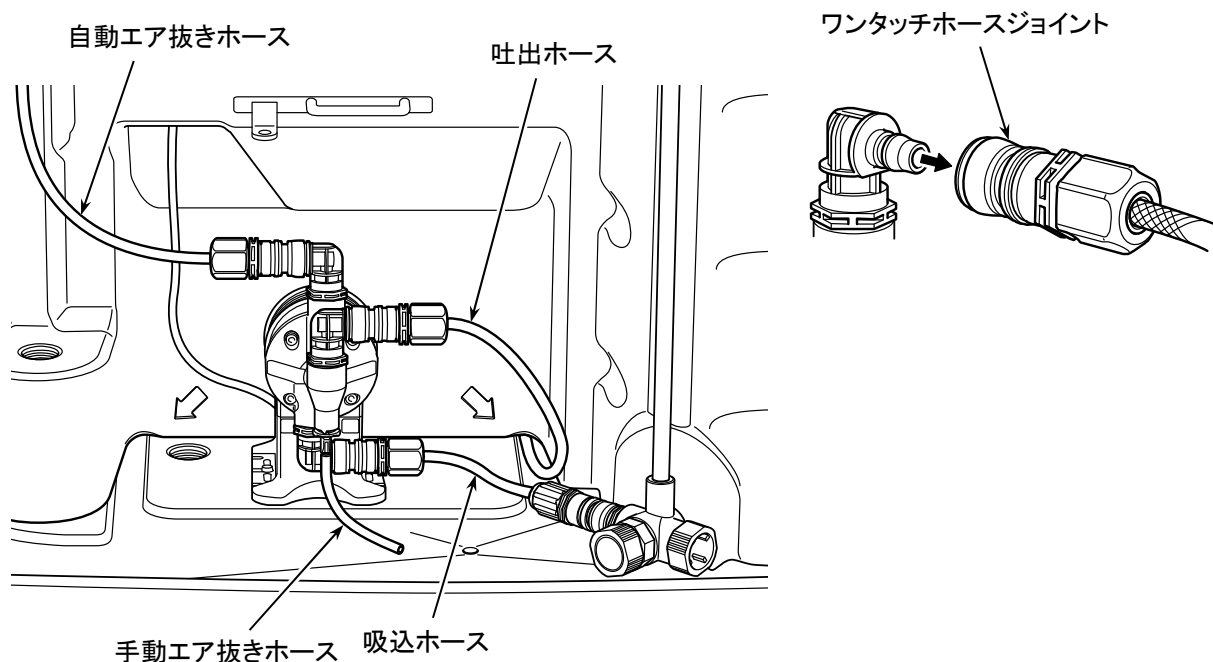
10. 保守点検

10.4 薬液注入ポンプ

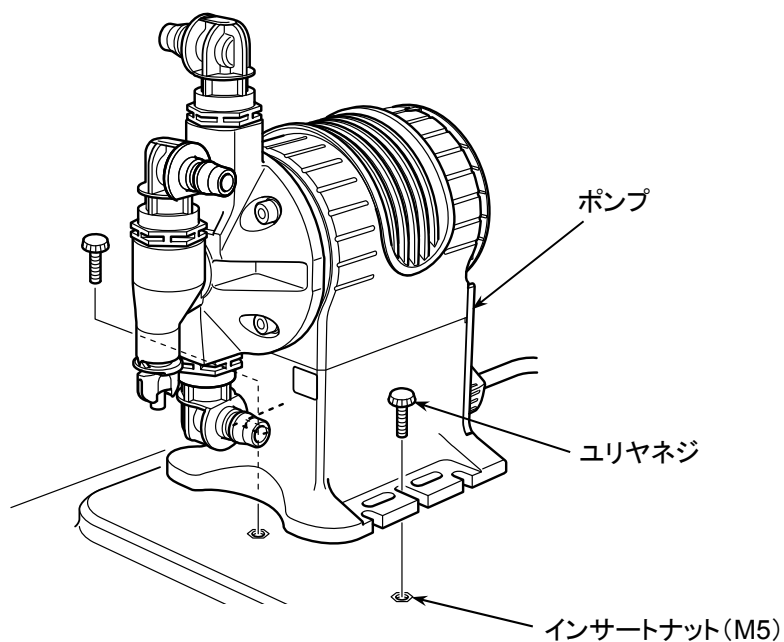
詳細は別冊の薬液注入ポンプ取扱説明書を参照してください。

■ ポンプの取外し

- ① 吸込側・吐出側ホースおよび自動エア抜きホースのワンタッチホースジョイントを外します。
- ② 手動エア抜きホースを外します。

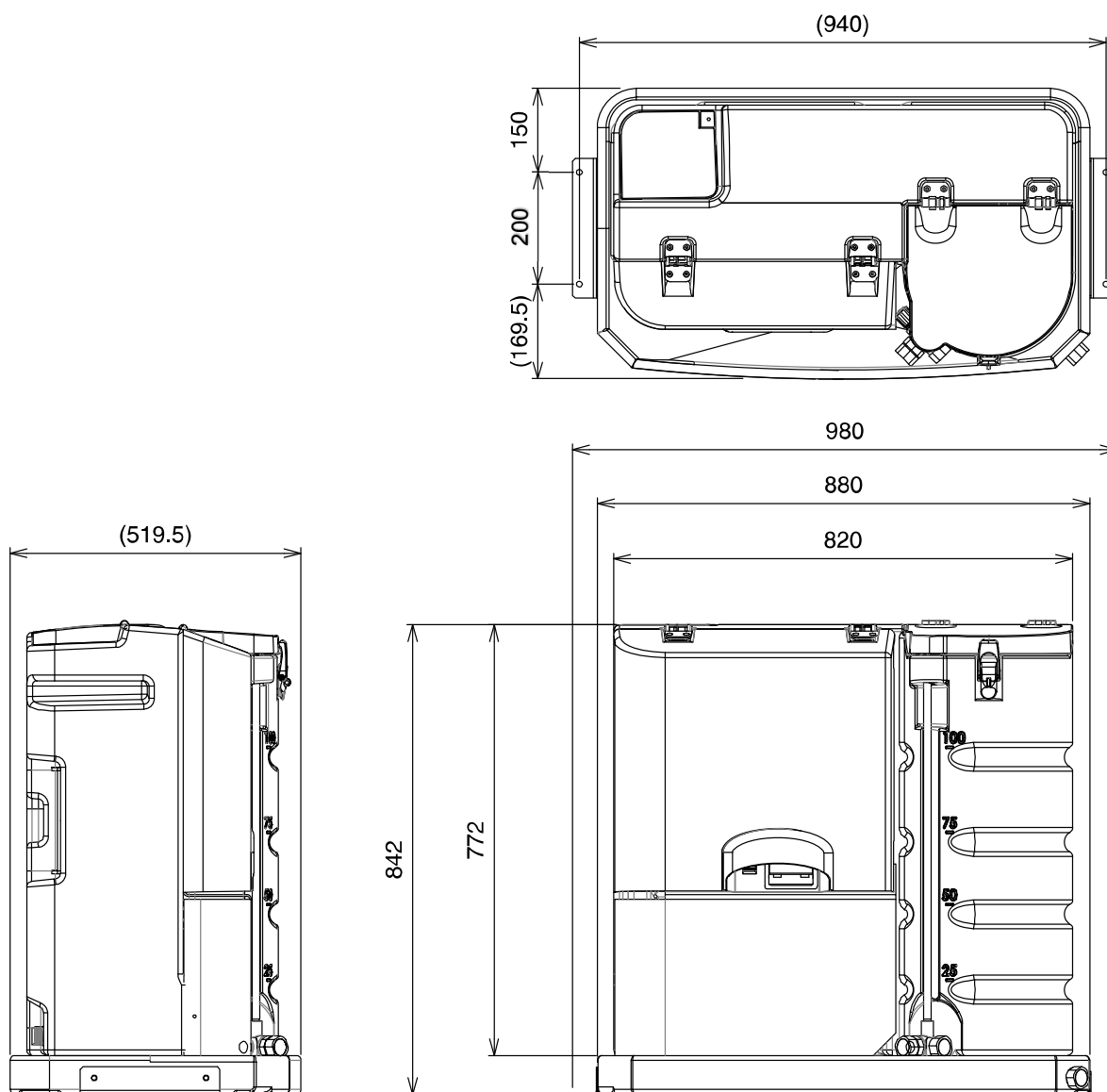


- ③ ユリヤネジを外してポンプを取り外します。



11. 外形寸法図

単位:mm



12. 保証と修理について

12.1 保証について

保証規程

1.保証

- 1) 本規程に基づく当社の保証期間は、対象となる当社製品の当社発送の日付から1年間といたします。
- 2) 納入された当社製品が、当社の製造および材質の不良に基づくものと明確に判断される原因により保証期間内に故障を起こした場合、当社は第3項に従い、無償にて当該対象製品の修理等を行います。
- 3) 本条に基づく保証責任は、対象製品に関して当社が負担すべき瑕疵担保責任、債務不履行責任に代わるものであり、いかなる場合もご購入された対象となる当社製品の貴社から支払われた契約金額を限度とさせていただきます。

2.保証の範囲

次のいずれかの項目に該当して故障、欠陥又は障害が発生した場合、当社は、本規程に基づく保証責任その他いかなる性質又は種類の責任からも免れるものとします。

- 1) 当社の指示又は仕様外、その他通常とは異なる条件で対象製品をご使用された場合
- 2) 当社又は当社が指定する者以外が実施した対象製品の据付、配管、操作、運転、保守、修理、改造、変更等に起因する場合
- 3) カタログ、仕様書又は製品取扱説明書、警告表示等の記載に反した目的又は使用方法等で対象製品をご使用された場合。栗田工業(株)推奨薬品以外を適用した場合。
- 4) 取扱液による化学的又は流体摩擦的腐食に起因して故障又は損害が生じた場合
- 5) 対象製品のお引渡し時における設計、製造、警告表示等に関する当該対象製品の業界で達成された通常の科学水準又は技術的水準では発見できない欠陥が存在することに起因した故障又は損害が発生した場合
- 6) 当社以外の製造又は指定外の部品などをご使用されたことに起因する場合
- 7) 内部を乾燥させた条件でない状態での凍結に起因する場合
- 8) 日本国外で使用される場合
- 9) 火災、災害その他、天災事変等の不可抗力による場合

3.保証の内容

対象製品に対する当社の保証は、保証期間内での当社指定工場での無償修理又は交換品の提供に限られるものといたします。保証期間内にあっても、摩耗、減耗又は費消する消耗品的性格を有するものの提供又は交換は、有償とさせていただきます。また、当社は逸失利益等の直接的損害はもとより、不稼働損失、機会損失、逸失利益等、知り得ていたか否かにかかわらず特別事情の損害、間接的損害やご購入製品以外の波及的損害並びに、医療事故及び原子力事故に起因する損害に対しては、いかなる性質又は種類の責任も負わないものといたします。

4.輸送中の破損

当社は、運送中に破損のないように万全の注意をもって発送いたします。到着後は、直ちにご確認のうえ、破損または異常箇所を発見された場合は、速やかにご購入先、または当社へご連絡ください。なお、運送中の事故等に起因する場合は、当該配送・運送業者の発行する事故証明書又は公的機関等の事故証明書を取得頂くものとし、これら事故証明書のない場合には、当社にて保証致しかねる場合もありますのでご了承ください。

12.2 修理について

本製品をご使用中に異常を発見した時は、直ちに運転を停止して故障か否かをご点検ください。点検は、「10. 保守点検」を参照してください。

- ①修理を依頼される場合は、ご注文先または本書の裏表紙に記載のお問い合わせ先までご連絡ください。
- ② 修理を依頼される場合は、「銘板に記載されているタンク型番と製造番号」「使用期間と使用状況」「故障箇所とその状況」をお知らせください。
- ③ 修理のためご返送される場合は、輸送中にタンク内部に残った取扱液が流出しますと危険ですので、必ずタンク内部を十分洗浄したうえで、ご返送願います。

お願い

本取扱説明書は予告なく変更することがあります。

MEMO

栗田工業株式会社

■本社・支社

本 社 :	〒160-0001	東京都中野区中野4-10-1	☎03(6743)5000
大阪支社 :	〒541-0041	大阪市中央区北浜2-2-22	☎06(6228)4800

■支店

東北支店 :	〒980-0014	仙台市青葉区本町1-12-30	☎022(225)6331
名古屋支店 :	〒460-0003	名古屋市中区錦1-5-11	☎052(203)2851
広島支店 :	〒730-0013	広島市中区八丁堀3-33	☎082(221)4471
九州支店 :	〒812-0011	福岡市博多区博多駅前1-1-1	☎092(472)0911

クリタホームページアドレス : <http://www.kurita.co.jp>
